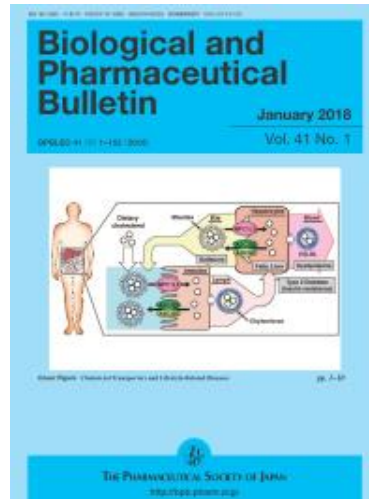


ジャーナルコンサルティング最終報告



公益社団法人 日本薬学会

学術誌編集委員長 細谷 健一

コンサルティング経緯

- 日時:平成29年9月11日13:30~15:00
- 場所:JST東京本部別館 2階会議室F
- 出席者 ①JST知識基盤情報部 研究成果情報グループ
② INLEXIO Dr. Dugald McGlashan, Dr. Caroline Hadley
③ 日本薬学会
細谷 健一(学術誌編集委員会委員長)
大槻 純男(BPB編集長)

9月11日の会議以外は、メールや電話にてINLEXIOと相談

公益社団法人 日本薬学会の概要

日本薬学会について

日本薬学会は、「くすり」に関係する研究者や技術者が、学術上の情報交換を行い、学術文化の発展を目的とする学術団体です。新しい医薬品の開発・製造、安全性の確認、臨床への供給など薬を使ってさまざまな病気を克服するという目的のもと、1.7万人を超える会員の情報源として機能しています。

日本薬学会は、さらに新しい未来を創造しながら、生命現象の解明と医薬品の適正使用をめざして、会員とともに人類の健康と福祉のため、着実な発展を続けていま

す。日本薬学会の歴史

- 1880年(明治13年)日本薬学会創立
- 1881年(明治14年)「薬学雑誌」創刊
- 1899年(明治32年)社団法人認可
- 1953年(昭和28年)「Pharmaceutical Bulletin」創刊
- 1965年(昭和40年)会誌「ファルマシア」創刊
- 2002年(平成14年)部会制の発足
- 2011年(平成23年)公益社団法人認可



会誌「ファルマシア」を毎月発行

会員数	正会員	17,158 (一般会員	14,518、学生会員	2,640)
	その他	273		
	合計	17,431		

2018年1月31日現在

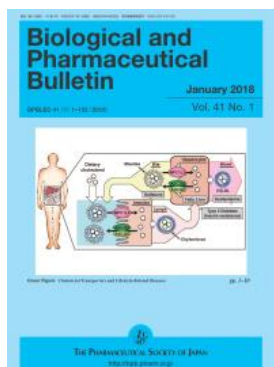
学術誌の発行

毎月1回1日(年12回)発行



Chemical and Pharmaceutical Bulletin (CPB)

1953年創刊 (2016年 IF:1.133)



Biological and Pharmaceutical Bulletin (BPB)

1978年創刊 (2016年 IF:1.683)

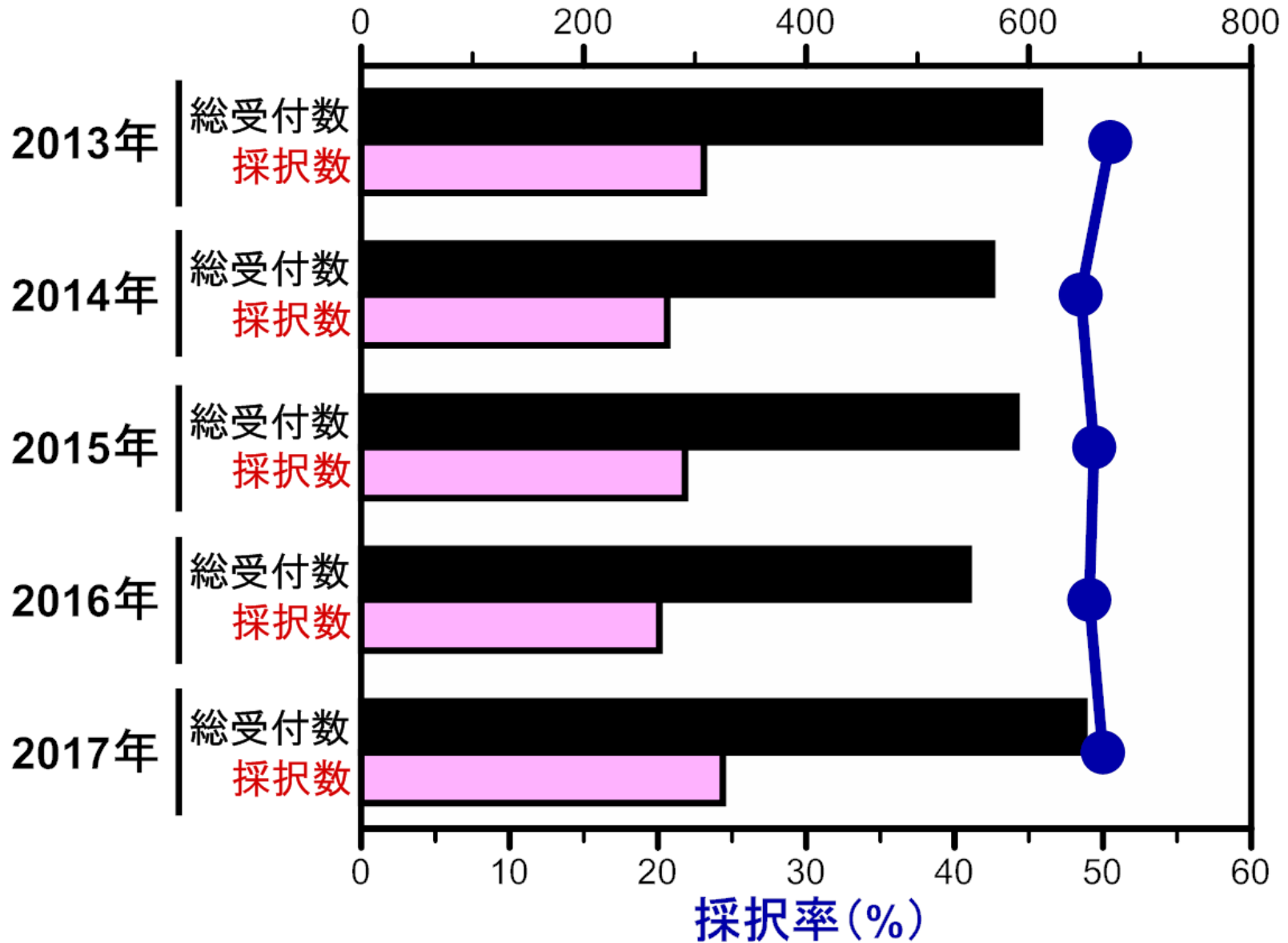


YAKUGAKU ZASSHI

1881年創刊 (2016年 IF:0.324)

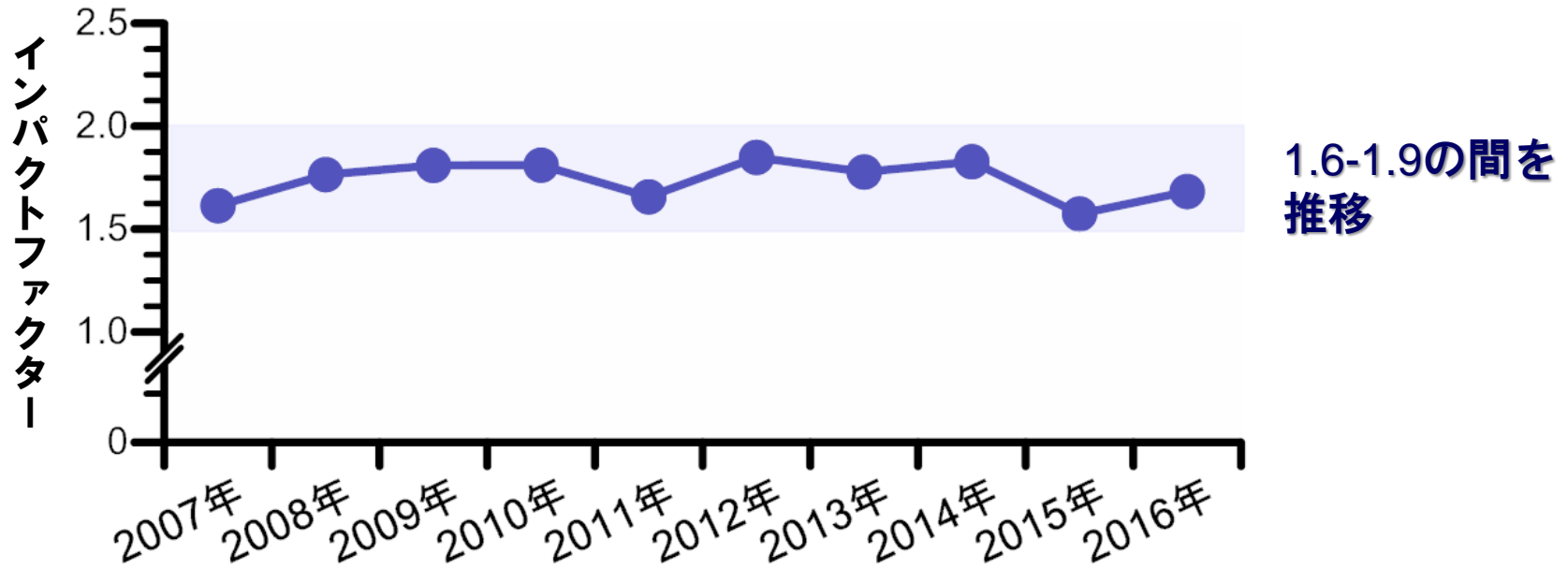
B P B 発行事業における現状：受付数と採択数

論文数(報)

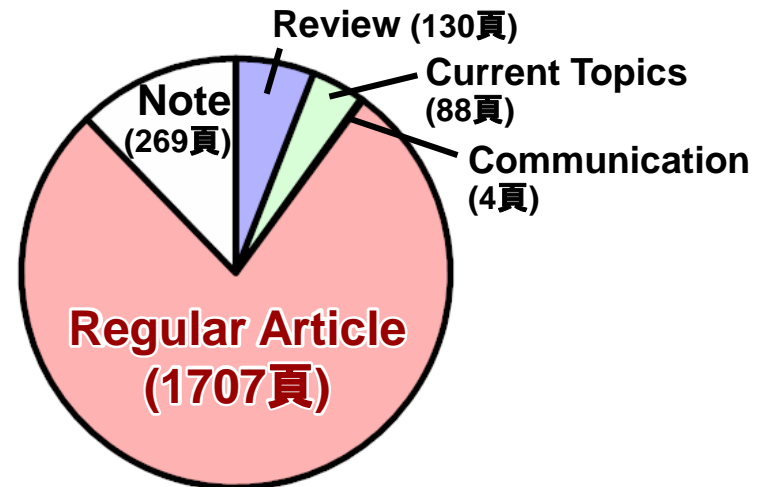
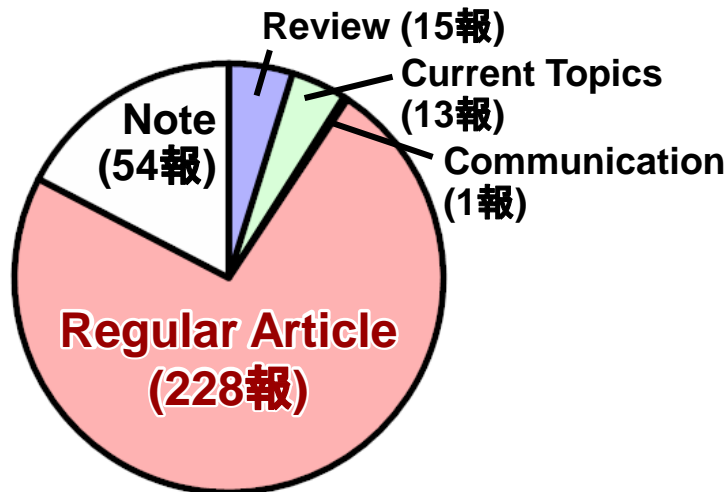


B P B 発行事業における現状： I F 推移と掲載論文内訳

過去10年間のインパクトファクター（IF）推移

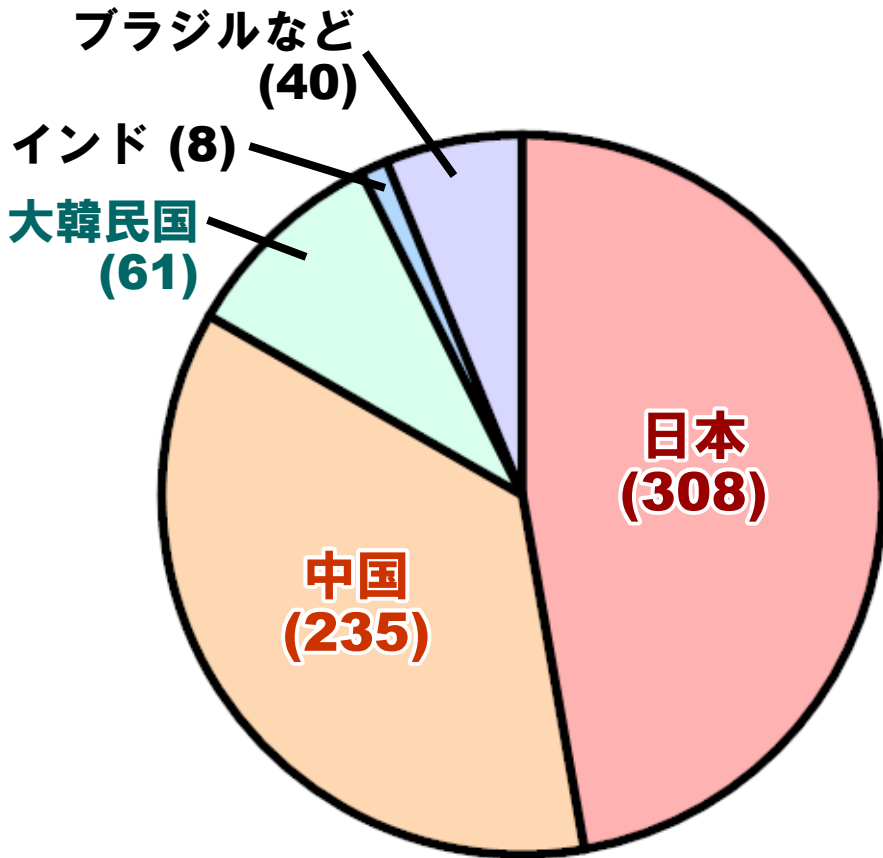


第40巻（2017年）掲載論文



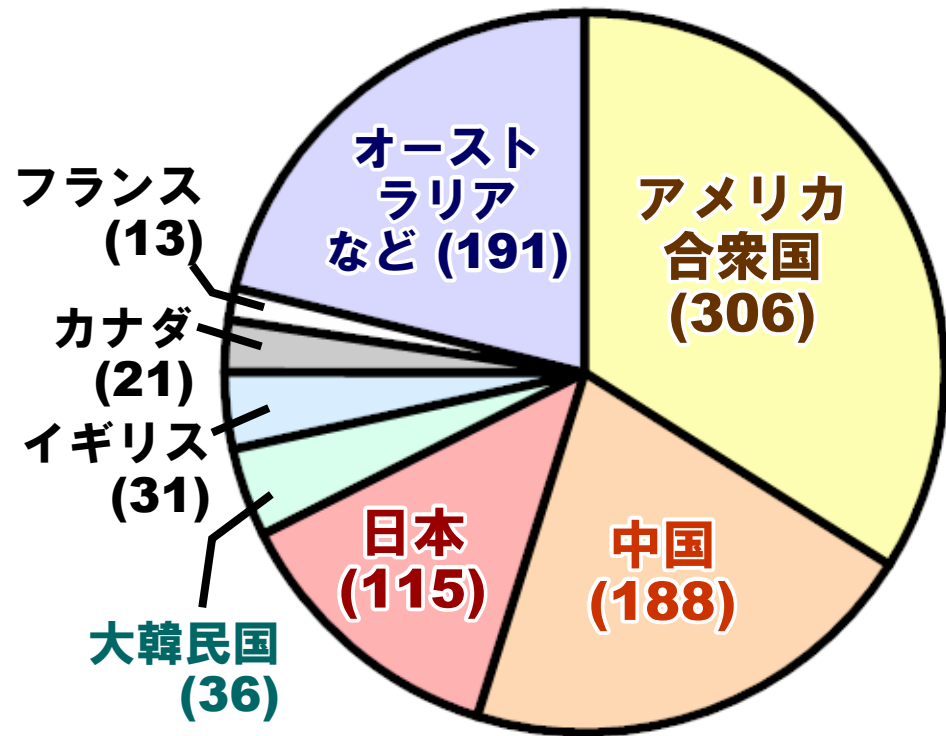
B P B 発行事業における現状：国別受付数とアクセス数

2017年国別受付数（報）



総受付数 = 652報

2017年国別アクセス数（千アクセス）



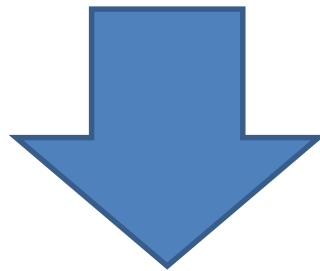
総アクセス数 = 901千アクセス

B P B 発行事業における現状

- 投稿の会員制限なし
- 投稿手数料: 3,000円(会員は掲載料から減額)/件
- 掲載料: 5,000円/page
- 通常掲載料: 30,000円(Note)～50,000円(Regular)/論文
(国内外、会員、非会員の掲載料同額)
- カラーページ: 印刷60,000円/page(online のみ4,000円/page)
- 海外からの投稿論文の採択率: 99報(30%)
- 学術誌編集委員はCPB、BPB、YAKUGAKU ZASSHI共通で
専門部門ごとに部門長をおいて論文を審査している
- 学術誌編集委員会部門長会議を年3回開催し編集方針の決定
や諸問題の対応を検討している
- 最近10年間のIFは1.6～1.9

コンサルティングへの参加

- Journalの国際化およびITの発展に伴うOA化への可能性を検討
- IFを上げる方策(2.0以上)の検討
- BPBの国際的な認知度を上げるため
- 当学会のOA化に対する認識を深めるため
- 学術誌発行事業の収支改善のため

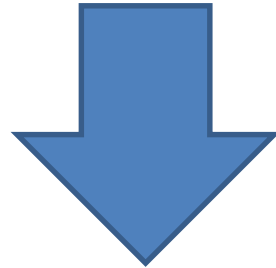


国際JournalのOA化の流れを踏まえ、
コンサルティングへの参加を決定

[対象誌:BPB]

Open Access Phase I Meeting

BPB発行事業に関わる2016年データを基に、INLEXIO社からBPBをOA化した場合のarticle processing charge (APC)の試算



モデル1: 完全OA化(冊子体を残す場合)

APC: 120,000円/Regular article(R)、90,000円/Note article(N)

モデル2: 完全OA化(会員費から500円/会員を補充した場合)

会員APC: 60,000円(R)/45,000円(N)、

非会員APC: 100,000円(R)/75,000円(N)

Open Access Phase I Meeting: 学会の判断

学術誌編集委員長、編集長、部門長及び担当理事によりBPB及びCPBのOA化について議論を行った。
OA化に向かうことについて基本的に了承され、掲載料は現状から大きく増額しない方向で理事会に提案することになった。



学術誌編集委員会部門長会議からの提案を受け、理事会においてオープンアクセス化について協議した。

- ・ 学術誌のOA化は時代の趨勢であり、日本のTOPジャーナルとして日本薬学会は牽引していくべきである。
- ・ しかしながら、公的資金に基づく研究成果の公開に関しては、既にJ-STAGEでfree accessが可能であり、OAと同様の発信力を有している。
- ・ 現時点では、会員ならびに投稿者から見たメリットとデメリットが明確とは言えず、より深い検討を要する。
- ・ 将来的なOA化は視野に入れながらも、早急な推進は時期尚早と判断し、部門長会議で継続して検討していくこととした。

学術誌発行に関する学会の今後の対応

- 2018年に完全OA誌BPB Reportsを発刊予定であり、BPB Reportsの動向を視野に入れBPB、CPB、さらにはYAKUGAKU ZASSHIのOA化の検討を進める
- 現在の掲載料から増額とならないAPCの設定と、出版収支のバランスを検討する
- BPB、CPBのOA化に向けての投稿規定、出版ライセンス契約書、OA化に向けてのガイドラインの整備
- クリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CC BY等)の学会ポリシーの表示
- IFを2.0以上に引き上げる

謝辞

- 国立研究開発法人 科学技術振興機構
知識基盤情報部 研究成果情報グループ
- INLEXIO社 Dr. Dugald McGlashan, Dr. Caroline Hadley